

2
2026

三重病院

ニュースレター

news letter vol.313



- 01 食物アレルギーに対する経口免疫療法のご案内
こども健康教室
- 02 起立性調節障害の精査を目的とした
入院検査を開始しました
第50回日本重症心身障害学会学術集会を開催して
やまばとギャラリー
- 03 通所支援事業のひとつコマ
5病棟の生活のひとつコマ
- 04 ツうちんの病院探険(医療安全管理室)
糖尿病ワンポイントアドバイスNo.19
- 05 令和8年度 奨学金制度のご案内
- 06 病院からのお願い/外来診察のご案内

食物アレルギーに対する経口免疫療法のご案内

入院プログラムについて

食物アレルギーは、特定の食べ物に対して体の免疫が過剰に反応し、じんましん、咳、嘔吐や下痢などの症状を引き起こす病気です。重い場合には、血圧低下など命に関わる症状が出ることもあります。乳幼児期に多く、卵や牛乳が原因となることがよく知られています。成長とともに自然に食べられるようになるお子さんも多い一方で、学童期以降も症状が続く場合には、日常生活の中での食事制限や、思いがけない誤食への不安が大きな負担となることがあります。

経口免疫療法は、原因となる食べ物をごく少量から、医療機関での厳重な管理のもとで計画的に摂取し、症状が出ずに食べられる量を徐々に増やしていくことを目指す治療法です。経口免疫療法には、より多くの量を食べられるようになることを目標とした4～6週間程度の長期入院による治療と、短期間の入院で治療を進める方法があります。これまで当院では、比較的長期間の入院による治療が中心でしたが、患者さんやご家庭の状況によって、「共働きで、毎日の摂取を十分に見守る体制を整えることが難しい」「まずはリスクを下げることを優先したい」「長期の入院はハードルが高い」といったさまざまなご事情があることがわかってきました。このような背景から、現在当院では、患者さんの状況も踏まえた治療選択を大切にしており、学校行事や受験などを考慮し、長期休暇等を利用した入院も受け入れております。

当院の短期入院による経口免疫療法について

当院の短期入院プログラムは、約2週間の入院で行います。この治療の主な目的は、「ごく微量でも症状が出ていた状態」から「少量であれば症状なく食べら

れる状態」を目指すことにあります。近年の研究から、ごく少量でも安全に摂取できるようになることで、日常生活での誤食によるアレルギー症状のリスクが下がる可能性が報告されています。短期入院後、「もう少し食べられる量を増やしたい」というご希望がある場合には、再度の短期入院による段階的な増量など、次のステップを検討することも可能です。治療の進み具合やご家庭の状況に応じて、治療方針を相談しながら進めていきます。

治療を検討される方へ

経口免疫療法は、すべてのお子さんに同じ効果が得られる治療ではありません。また、摂取を中断すると効果が弱まることがあります。治療開始前に、効果と限界、注意点について外来で丁寧に説明いたします。「まずは誤食によるリスクを下げたい」「食べられるものを増やしたい」とお考えの方は、当院アレルギー科外来へご相談ください。

※経口免疫療法は、専門施設において、医師が適応を慎重に判断し、緊急時対応が可能な体制のもとでのみ行われます。ご自宅で独自に試みることは大変危険です。絶対にお控えください。

(アレルギー疾患治療開発研究室長 桑原 優)

